

## 2024 連合ジェンダー平等推進中央集会アピール

私たちは、本日「男女平等参画・ジェンダー平等で持続可能な社会へ！」をテーマに、会場とWebにおいて集うことができました。

ジェンダー平等は、2030 年までに持続可能でよりよい世界をめざす国際目標であるSDGsにおいて、一つの独立したゴールであると同時に、SDGs全体の目的であり、17のゴールすべてを実現するための手段でもあります。世界がSDGsの達成に向けて歩みを進める中、私たちの取り組みも着実に進めていく必要があります。

1995 年に北京で開催された「第 4 回世界女性会議」において、「北京宣言」および「行動綱領」が採択されてから約 30 年が経過しました。世界の潮流は完全なジェンダー平等の実現ですが、わが国におけるジェンダー平等の実現は、未だ道半ばの状況にあります。日本国憲法にうたわれている個人の人権の尊重、男女平等の理念の実現のため、政府はもちろん、労働組合においても不断の取り組みが求められています。

本日の基調講演では、男女比の歪みは結論の歪みを生じさせること、多様性は生産性を高めることを学びました。性別役割分担意識から脱却し、男女がともに家事や育児の責任を担い、女性が職場で活躍する必要性、組織において多様な意見を認め合うことの重要性を改めて認識し、2030 年に向けて、私たちは取り組みを加速させなければなりません。

またパネルディスカッションでは、労働組合だけでなく、職場・社会の持続可能性を高めるためにはジェンダー平等の実現が必要不可欠であることも確認しました。

連合は 1989 年結成時の基本文書である「連合の進路」で、「労働運動をはじめとするあらゆる分野に女性の積極的な参加を進め、男女平等の社会の実現をはかる」と掲げ、継続して取り組んできましたが、男女平等参画社会の実現は一朝一夕に達成できるものではなく、粘り強く、一つひとつの取り組みを積み重ねていくことが必要です。

「Change, Challenge, Movement!」

連合「ジェンダー平等推進計画」フェーズ2のスタートを切る今こそ、各目標を自組織の取り組みに落とし込み、各組織のトップリーダーによる強いリーダーシップのもと、不断の取り組みを進める時です。

本日の集会で得られた知見を持ち帰り、連合、構成組織、地方連合会が一丸となって、労働組合における男女平等参画、職場・社会におけるジェンダー平等の実現に向けて運動を展開し、持続可能な社会をめざしていきましょう。

2024 年 10 月 25 日  
2024 連合ジェンダー平等推進中央集会